

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 総合的・実践的な学問分野として言語コミュニケーション文化学の確立を目指す。	→教員の研究成果をネット上で公表。	A
2. 変化する国際化社会の中にあって、活躍できる実践力を備えた高度職業人を養成する。	→課程修了者数。進路調査・満足度調査。	A
3. 国際的に活躍できる研究者・大学教員を養成する。	→進路調査の実施（研究者数）。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

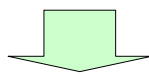
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 言語学、文化研究、言語教育学、教育法研究など多様な分野を包括する総合的な学問分野として言語コミュニケーション文化学の確立を目指すとともに、言語コミュニケーション文化学を専門とする研究者、高度職業人を養成する。 (現状説明) 言語コミュニケーション文化学の立場から、各教員はそれぞれの研究領域（言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学）において、活発な研究活動を行い、研究者、高度職業人の養成を行っている。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 各教員は各研究領域（言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学）において、研究発表を行い、その成果を本学の研究業績報告書に掲載している。大学構成員には、広報誌、大学のホームページを通して、研究科の理念を周知させている。年3回、社会人を対象に講演会・入試説明会を行い理念を社会へ公表している。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 研究科の理念や目的の点検は、研究科内に自己評価委員会を設置し、定期的に行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	各研究領域における教員の研究成果の発表。研究者、高度職業人の養成。
★ 小項目0.0.2	研究科広報誌「Graduate School of Language, Communication, and Culture」の発行（年1回）。ネット上での研究発表の成果公表。社会人を対象とした講演会を年に3回実施。入試説明会を年に3回実施。
小項目0.0.3	自己評価委員会を設置し、理念や目的を定期的に検討している。
その他	



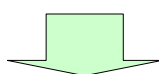
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	さらに多くの研究者、高度職業人を養成するためにも入学者数を確保する。
★ 小項目0.0.2	本学の学部生を対象にした推薦入試の実施。
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】
○研究科の理念・目的について、一層の周知が望まれます。

【学内委員】
○理念・目的はHPに公表されており、その下で活発な教育活動・研究活動を行っていることが伺え、それが進捗評価「A」となっているかと思われます。ただ、その裏付けとなる数値を挙げて現状説明をされることが望まれます。
○自己点検・改善のサイクルが機能しているものと判断されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし	
------	--

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
